

令和5（2023）年度 事業報告

令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置付けが5類感染症に移行したことに伴い、様々な行動制限が撤廃又は緩和され、人流が活発化したことから、当館の来館者総数や小中学校の来館が大きく伸び、来館者総数は72,543人（前年度：59,666人）となった。また、中期経営計画の主要な指標である大阪府内公立小中学校の来館率（来館校数）は、30.0%（421校）（前年度：27.8%（392校））となり、コロナ前と同水準まで回復した。

平素より小中学校の来館に際しては、アンケートを行うなどそのニーズの把握に努めており、校外学習の時期や曜日が集中することで混雑により平和学習の質の低下にならないよう、予約段階から入館調整による分散を図り、快適な環境で見学ができる場を提供するよう努めた結果、小中学校の平和学習到達度（学校満足度）は、96.2%と高い評価を得た。

加えて、これら小中学校の来館促進を図るため、校長会等でのPRや、教員等の平和・人権研修等の積極的な誘致にも力を入れ、当館の認知度を高める機会の確保に努めた。

世界的規模で平和への意識が高まり、当館の果たす役割が益々重要になっており、主催事業として、大阪大空襲の日など節目の時期に平和祈念事業を3回（終戦の日の事業は台風で中止）、他館等と連携した特別展示を4回実施した。

また、戦争の悲惨さ・平和の尊さを次世代に伝えていくため、前年度に制作した戦争体験者の証言映像を記録したDVDを貸出資料に追加するとともに、講堂での上映会やリニューアルした当館ホームページからYouTubeでの公開を行った。

また、当財団の運営経費における自主財源の割合が非常に低い状況にある中、文化庁の補助金を活用し、府内の他の資料館や大阪市小学校教育研究会社会部との連携により、当館などの資料館に来館する前後に学校における平和学習の授業で利用することができる平和学習デジタルコンテンツ「戦争と人々の暮らし」を制作した。

令和5年4月には博物館法の抜本的な改正があり、従来当館は博物館類似施設としての位置づけであったところ、博物館としての基本的機能を強化し、その活動を充実させるため、令和5年10月1日付けで同法に基づく「博物館に相当する施設」として指定を受けた。

施設面では、老朽化した施設改修として、前年度から行っていた金属屋根防水工事、外壁撥水工事等が完了し、施設の快適性の向上を図った。

1. 展示事業

(1) 常設展示

必要に応じて、適宜、アップデートに努めた。

2階展示室

Aゾーン：昭和20年、大阪は焼き尽くされた

Bゾーン：世界中が戦争をしていた時代

Cゾーン：戦時下の大阪の暮らし

スロープ

空襲体験者の「証言と体験画の回廊」

1階展示室

Dゾーン：多くの犠牲を出し、焼け野原になった大阪

3階展示室

Eゾーン：たくましく生きる大阪

Fゾーン：私たちの未来をつくっていくために

映像コーナー

図書室

映画の定時上映（講堂）

(2) 特別展示

所蔵資料の活用や関係機関・団体の協力を得ながら実施した。

①「むかしの暮らし ―昭和・戦時期の人々のせいかつ―」

〈趣 旨〉 昭和・戦時期に使われていた日用品などを展示し、由来や人々の知恵、工夫を紹介するとともに、特別展のために制作した2つの情報コンテンツを公開した。

（特別協力：国立民族学博物館 ※令和4年度国立民族学博物館公募型共創メディア展示事業の支援による）

〈期 間〉 3月1日（水）～7月16日（日）

〈内 容〉 収蔵品 約75点

〈参加者〉 22,455名

②「#HereIstand 我ここに立つ ―マルティン・ルター、宗教改革とそれがもたらしたものの」

〈趣 旨〉 ヨーロッパ社会の宗教・文化・政治に大きな変化をもたらした、マルティン・ルターによる宗教改革とその成果をパネルで紹介した。

（協力：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館）

〈期 間〉 8月25日（金）～9月24日（日）

〈内 容〉 パネル展示

〈参加者〉 4,383名

③「沖縄の学童疎開船「対馬丸」事件 いま生きる私たちへのメッセージ」

〈趣 旨〉 対馬丸事件をテーマに、未来ある子どもたちがなぜ命を落とさなければならなかったのかを考える機会として、パネル展を開催した。

（協力：公益財団法人 対馬丸記念会）

〈期 間〉 10月1日（金）～12月27日（日）

〈内 容〉 パネル・映像展示

〈参加者〉 23,481名

④「特攻一知覧・万世に遺された若者たちの思い」

＜趣 旨＞ 特攻に至る経緯、特攻の出撃基地などを説明したパネルを展示し、特攻隊員の遺影、遺書もあわせて紹介した。

（協力：知覧特攻平和会館、万世特攻平和祈念館）

＜期 間＞ 1月16日（火）～3月31日（日）

＜内 容＞ パネル・映像展示など

＜参加者＞ 17,172名

(3) その他の展示

いのちへのメッセージ、学校から寄贈された千羽鶴

(4) ワークショップスペース(3階)の有効活用

① 映画『あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。』パネル展

＜期 間＞ 11月22日（水）～1月30日（火）

＜内 容＞ 映画ポスターやパネルを展示

② 学校から提供された平和学習成果物や学芸員実習生制作のポスターの展示

2. 企画事業

アンケート結果も踏まえつつ、当館の発信力を強化し、魅力ある事業の展開に努めた。

(1) 平和祈念事業

終戦、開戦、大阪大空襲など節目の時期に、戦争の悲惨さと平和の尊さについて考える機会として、集客力のある多様なイベントを開催した。

① 終戦の日平和祈念事業

＜実施日＞ 8月15日（火） 午後2時～午後3時30分

「戦争犠牲者追悼式と平和コンサート」 ※台風による臨時休館のため中止。

② 開館の日平和祈念事業

＜実施日＞ 9月17日（日） 午後2時～午後4時

シンポジウム「平和への責任—エルサレム・神殿の丘をめぐる三つの—神教を事例として」

・内 容：エルサレム・神殿の丘を事例に、平和構築を考えるためのシンポジウム
（共催：大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館）

モデレーター：小原克博（同志社大学神学部教授、神学部長・神学研究科長、良心学研究センター長）

パネリスト：ミルコ・クイント（聖ミカエル教会 主任司祭）

ヘンリ・ノア（ラビ〈ユダヤ教の聖職者〉）

ムガール・フマユン（国際ジャーナリスト、宗教評論家）

・参加者：125名

③ 開戦の日平和祈念事業

＜実施日＞ 12月3日（日） 午後2時～午後4時

「落語と平和～ピースおおさか平和寄席～」

- ・出演者：桂春團治、笑福亭鶴笑、桂咲之輔、桂小留
- ・参加者：138名

④ 大阪大空襲平和祈念事業

＜実施日＞ 3月10日（日） 午後2時～午後3時45分

講演会「知覧・万世が伝える“特攻の記憶”」

- ・内容：知覧特攻平和会館と万世特攻平和祈念館の学芸員による講演会
講演者：八巻聡（知覧特攻平和会館学芸員）
楮畑耕一（万世特攻平和祈念館学芸員）

- ・参加者：152名

(2) ウィークエンド・シネマ

- ・日時：毎週土曜日 午後2時～
- ・内容：所蔵している視聴覚資料や特別展開催にあわせて借用した作品の上映
前年度制作した戦争体験者の証言映像を8月に上映したほか、2月17日には、映画「ラストメッセージ～“不死身の特攻兵”佐々木友次伍長～」の上松道夫監督による上映前トークも実施した。
- ・参加者：5,013名

(3) 親子まつり

ゴールデンウィーク、夏休み、春休み期間にアニメ映画の上映等を行った。

① ゴールデンウィーク

- ・日時：4月30日（日）～5月7日（日） 午後2時～
- ・内容：アニメ「おじゃる丸 ちっちゃいものの大きなちから」等の上映
- ・参加者：40名

② 夏休み

- ・日時：7月27日（木）～8月20日（日） 午前11時～、午後2時～
（8月13日は午後のみ実施）
- ・内容：アニメ「真っ黒なおべんとう」等の上映、絵本「母と子」等の読み聞かせ
- ・参加者：576名

③ 春休み

- ・日時：3月24日（日）～31日（日） 午後2時～
- ・内容：アニメ「お父さんへの千羽鶴」等の上映
- ・参加者：109名

(4) 府政学習会（大阪府府政情報室との連携事業）（今年度は開催なし）

3. 館外利用事業

当館のアウトリーチ活動として、館外利用の促進に取り組んだ。

(1) 出前展示

パネル・実物資料の展示、パンフレットの配布等を実施し、将来の来館につながるよう、展示内容の工夫や実施場所の開拓等に努めた。

① 大阪市立阿倍野図書館

- ・日 時：3月17日（金）～5月17日（水）
- ・場 所：大阪市立阿倍野図書館
- ・内 容：実物資料などの展示

② 大阪市立淀川図書館

- ・日 時：5月19日（金）～6月14日（水）
- ・場 所：大阪市立淀川図書館
- ・内 容：実物資料などの展示

③ 大阪市立旭図書館

- ・日 時：7月21日（金）～8月16日（水）
- ・場 所：大阪市立旭図書館
- ・内 容：写真パネルなどの展示

④ 大阪市立総合生涯学習センター

- ・日 時：8月9日（水）～24日（木）
- ・場 所：大阪市立総合生涯学習センター ギャラリーA
- ・内 容：写真パネル、実物資料の展示

⑤ 大阪市立浪速図書館

- ・日 時：8月18日（金）～9月20日（水）
- ・場 所：大阪市立浪速図書館
- ・内 容：写真パネルなどの展示

⑥ 大阪市立東淀川図書館

- ・日 時：10月3日（火）～31日（火）
- ・場 所：大阪市立東淀川図書館
- ・内 容：実物資料などの展示

⑦ 大阪府立中之島図書館

- ・日 時：10月18日（水）～30日（月）
- ・場 所：大阪府立中之島図書館
- ・内 容：写真パネルの展示

⑧ 大阪府庁本館

- ・日 時：10月20日（金）～31日（火）
- ・場 所：大阪府庁本館
- ・内 容：写真パネルの展示

⑨ 大阪市立都島図書館

- ・日 時：11月1日（水）～12月5日（火）
- ・場 所：大阪市立都島図書館
- ・内 容：実物資料などの展示

⑩ 大阪府立中央図書館

- ・日 時：11月30日（木）～12月19日（火）
- ・場 所：大阪府立中央図書館
- ・内 容：写真パネルなどの展示

⑪ 大阪市立中央図書館

- ・日 時：1月19日（金）～31日（水）
- ・場 所：大阪市立中央図書館
- ・内 容：写真パネル、実物資料の展示

(2) 「平和学習協力者」の派遣（紹介）

学校等からの派遣依頼に対し、「平和学習協力者」（語り部や平和紙芝居演者等）の紹介を行った。今年度で「平和学習協力者」の紹介事業は終了し、次年度からは戦争体験証言などの映像視聴プログラムの実施に切り替える。

- ・紹介件数：45件

(3) 平和学習資料の貸出し

学校、官公署、市民団体等の要請に応じ、平和学習用資料(写真パネル、空襲体験画、ビデオ、DVD等)の貸し出しを行った。

資料の充実に努めるとともに、特に遠方の学校等については、来館に代わる平和啓発活動の一環として広報に努めた。

- ・貸出件数：285件（利用人数 98,534人）
（小学校 115件、中学校 47件、高等学校 2件、自治体 55件、その他 66件）
- ・貸出資料種別（延べ 518件）
（ビデオ 13件、DVD 414件、紙芝居 14件、パネル 49件、体験画 19件、実物資料 9件）

4. その他の事業

(1) 「大阪市児童絵画・版画作品展」(大阪市小学校教育研究会図画工作部主催)

- ・日 時：7月28日（金）～8月18日（金）
- ・内 容：各校から2枚ずつ選定された作品を前期・後期に分けて特別展示室に展示
- ・参加者：展示作品の児童父兄等約1,200名

(2) 生きた建築ミュージアムフェスティバル大阪 2023

(大阪市都市整備局企画部住宅政策課事業への協力)

- ・日 時：10月28日（土）～29日（日） 午前10時～、午後2時～
- ・内 容：ガイドツアー（館内および屋上見学）
- ・参加者：39名

(3) 講堂・会議室の利用

府内の自治体（教育委員会含む）や公共的団体等が講堂や会議室にて平和・人権に関する研修会等を行う場合に、各団体の申請により施設の使用を許可し、あわせて申請があれば使用料等を免除することとして施設の有効活用を図った。

- ・使用許可件数：19件

<主な利用例>

- ① 国際理解・国際協力を考える連続セミナー「留学生と平和を語ろう」
（大阪ユネスコ協会主催）
 - ・日 時：11月5日（日）、12月10日 午後1時～午後3時
 - ・内 容：国際社会の現状の課題を学び、平和な未来について考えるセミナー
 - ・参加者：30名
- ② 「ユニセフシアター」（大阪ユニセフ協会主催）
 - ・日 時：11月23日（木） 午後1時～午後4時
 - ・内 容：「世界の果ての通学路」を上映
 - ・参加者：71名
- ③ 大阪府教員初任者研修
 - ・日 時：11月14日（火）、16日（木）、28日（火）、29日（水）、30日（木）
 - ・内 容：新任教員等に対する平和・人権研修
 - ・参加者：約1,100名

5. 「刻の庭」の管理運営

大阪空襲死没者の追悼及び恒久平和を祈念するため、2005（平成17）年度に整備した「刻の庭」の管理運営を行った。

大阪空襲死没者名簿の管理、新規登載申出の受付等を行った。

<空襲死没者名簿（原簿）の管理>

- ・追加登載者数：13名
- ・名簿の訂正：1名
- ・登載者数計：9,157名（令和6年3月31日現在）
（内訳）公開 9,109名（刻の庭前で公開）、非公開 48名

6. 資料の収集・提供

実物資料、視聴覚資料、図書資料の適切な収集と管理に努め、展示及び貸出資料への利活用を図るとともに、「収蔵品管理システム」により資料の整理、保存等を行った。前年度制作した戦争体験者の証言映像は、DVDの団体向け貸出を6月から開始した。また、第一次大阪大空襲のあった3月13日には、その映像の中から4名の証言を

YouTube で公開した。

令和5年度文化庁文化芸術振興費補助金 Innovate MUSEUM 事業により、学校向け平和学習用デジタルコンテンツ「戦争と人々の暮らし」を制作した。

	資料収集件数		単位：点
	寄贈資料	購入資料	
実物資料	19	0	
視聴覚資料	3	56	
文書資料	36	0	
図書資料	64	36	
計	122	92	

2024（令和6）年3月末の資料収集件数（収蔵検索システム登録件数）

・物品：11,239点

（実物 4,809点、文書 2,068点、視聴覚 4,357点、その他 5点）

・図書：34,661点

合計：45,900点

7. 広報・啓発

(1) ホームページの運営・SNSでの情報発信

ホームページにより施設利用案内や事業広報等の情報提供を行うとともに、ホームページからイベント参加申込ができる機能を追加した。

・アクセス数：124,536回（うち、日本は90,448回）

観光客の来館誘導の強化を図るため、SNSで情報発信を行った。

(2) 印刷物の作成・配布

リーフレット「展示のしおり」の配布に加え、各種企画事業のチラシやポスターを適宜作成、配布するとともに、館報「ピースおおさか」を発行した。

(3) 学校等に対する多様な媒体を活用した広報

関係組織や旅行社、来館実績のある府外学校等へダイレクトメールを送付した。

府市、中核市の教育委員会等（小中学校校長会、人権担当者会議を含む）に対して、校外学習での当館への来館や貸出資料の利用を促した。

8. 来館者サービスの向上

学校の来館時期を分散化させることにより、見学しやすい環境を整え、学習効果を高めた。

アンケート結果も踏まえて、来館者のサービス向上に取り組んだ。

なお、今年度の入館者総合満足度は96.0%、学校満足度（平和学習到達度）は96.2%であった。

9. 自主財源（平和寄金）の確保

あらゆる機会等を通じて、平和寄金の趣旨（企画事業・特別展示等の原資）と寄附に係る税の優遇措置を説明し協力を求めた。なお、今年度の平和寄金収入は 877,279 円であった。

「ピースおおさか友の会」会員の新規拡大に努めた。

＜「ピースおおさか友の会」入会状況＞

- ・個人会員：48名
- ・団体会員：6団体

10. 効率・効果的な事業の実施

企画事業の充実を図り、収蔵品など既存ストックの有効活用に努めつつ、効率・効果的な事業実施等を行った。

財団内部の「企画会議等」において、経費支出の精査を行い、運営コストの抑制に努めた。

府市と入館者増に向けた取組み状況・課題を整理するため、適宜、「集客等ワーキング」などを開催した。

11. 施設の保全・補修

ピースおおさかの長寿命化及び安全性・快適性の確保を図るため、平成 28 年度に作成した「施設修繕計画」（平成 29 年度から 10 年間）に基づき、補修工事を計画的に実施した。

＜実施内容＞ 金属屋根防水工事、外壁表面の撥水材工事等